



DRAMA かながわ No.86

Theater Association of Kanagawa May 2022

2021年度TAK合同公演

第19回かながわ演劇博覧会 / TAK in KAAT / 芝居塾2022情報 ほか



2021年度TAK合同公演

神奈川県立青少年センター 紅葉坂ホール 2022年3月12日～13日



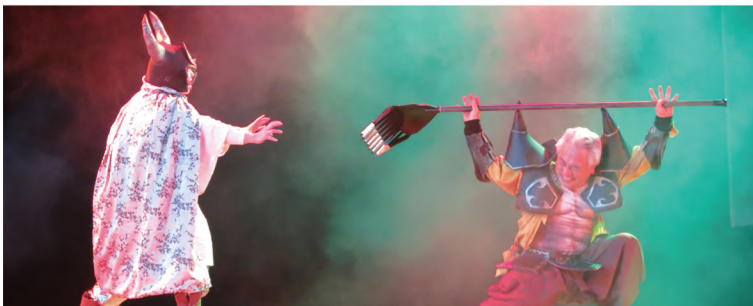
劇団砂からマカロン

『サプライズ!!!』



劇団横濱にゆうくりあ 映像ドキュメント

『YOKOHAMAというステージを追いかけてきた!!』



G/9-Project プロデュース

『西遊記2022』



【総評】文：佐藤典久（G/9-Project）

昨年度は新型コロナウイルス拡散蔓延防止のため開催できず涙をのんだ合同公演。本年度は大変多くの方のご助力により無事に上演する事が出来ました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

本年度はTAK（神奈川県演劇連盟）のもう一つの事業『かながわ演劇博覧会』と日程が重なり、初の同日開催となりました。たまたまではありますが、同じ建物内の別会場で行われる演劇の祭典に、お客様や出演団体、またその関係者たちは複数の作品を観劇することが出来るという、大変豊潤で有意義な時間を提供することが出来ました。

合同公演自身も企画段階より、大人数が稽古場に参加するという密を避けるため、演劇博覧会同様に同一の舞台を使って複数の団体が別々の演目を上演するというスタイルでスタートしましたので、午前中から夕方まで、観劇される方はいつものプログラムの中から自分の観たい作品を選び、時間を余すところなく使えるという、本当に面白い

二日間となりました。

稽古段階では、濃厚接触者となってしまったため出演を辞退された方もいらっしゃいましたが、公演では感染者を出すことなく無事に終わることが出来てほんと安堵しております。来年度もまたにぎにぎしく文化の祭典をお届け出来るよう努力したいと思っております。





参加者の声

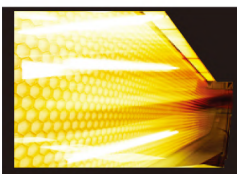
今回参加の機会を初めていただき、G/9-Project プロデュースさんの作品に出演しました。大人の方たちが多く中で演劇を創り上げていくことはほぼ初めてだったので多くのことを学びました。そして経験を積んだ方たちの演技には大変刺激をいただきました。

公演をした青少年センターの紅葉坂ホールは学生の頃から馴染みのある場所だったので、久しぶりにその舞台に立てる喜びもありました。照明、音響を初めて見た時には脚本の世界観の演出に心が踊り、より一層の本番が楽しみで仕方ないという気持ちでいっぱいでした。

稽古中から笑いで溢れていて、本番中も袖にいても表に出ても最後の最後まで笑顔に溢れていました。お客さんが

らいただいた感想やリアクション、拍手を聞くとこの公演が出来て良かったと何度も思いました。まだ続くコロナ禍という厳しい世の中で、無事公演を終えられたことを本当に幸せに思いますし、関わってくださった方々には感謝でいっぱいです。

文：杉原樹（G/9-Projectプロデュースチーム参加）



劇評

2021年度TAK合同公演

文：横田和弘（劇団河童座）

■劇団砂からマカロン『サプライズ!!!』

新しく始めるカフェの開店前に友人の事故（いたづら）というサプライズを誕生日（うそ）のドッキリで返すという、5人の仲間たちの爽やかな物語。普段小劇場公演を中心の劇団がセンター大ホール（紅葉坂ホール）での公演にチャレンジしたことに、拍手。声も出ていたし滑舌も良くセリフがちゃんと通っていたことにも拍手。

ストーリーはドラマが始まったかと思うと肩透かし。大きな事件ではなく、仲間たちの楽しいサプライズ合戦と絆を感じさせる爽やかな物語。演者と等身大の若者たちの明日からの成功を祈りたくするような清々しさを感じた舞台だった。

■劇団横濱にゆうくりあ 映像ドキュメント

『YOKOHAMAというステージを追いかけてきた!!』

不思議な感じで観終えた。果たして演劇祭の中での映像はどんなものなのかとの思いでいたのだが、いつの間にか引きずりこまされた。

今は亡き一人女優：奈須由紀江の「芝居創りドキュメント」とでも言うのであろうか。映像ではあるのだが明らかに演劇の一面を見せられた気がした。若かりし頃の自分の芝居創りの現場を思い返すようであったし、演劇人の熱き想いが伝わってきた。

しかし、やはり生の奈須由紀江の舞台が観たかった。これも叶わぬ演劇の儚さなのだろうか。いやだからこそ生の演劇の輝きがあるに違いない。そう思った次第である。

■G/9-Project プロデュース『西遊記2022』

劇団☆新感線を目指したのかな、とはこの芝居を観た観客の声だった。（同感）

落語、殺陣、パフォーマンス、音楽、ダンス、いろいろな遊び心詰まった楽しい芝居だった。脚本も年老いた沙悟浄と猪八戒を奮い立たせようとの金角・銀角をも巻き込んだの大芝居。面白い発想だった。

残念だったのは、大人数の呼吸が合わないところを感じられた事と、BGMやパフォーマンスに負けてその面白い台詞が聞き取りづらかった事だろうか。面白い台詞が観客を巻き込めなかったような気がした。

【全体を通して】

まずは先の読めないこのコロナ禍の中、合同公演を成し遂げたことに拍手！！

舞台の中も観客席にも多くの「規制」や、「ねばならないこと」が多く苦労は多かったと思う。集客もやはりこのコロナ禍の中、思うに任せず苦戦をしたであろうと思われる。

演劇祭の特徴は映像が登場したことが特徴だろうか。当たり前だが『生』の意味を痛感させられたように思えた。演劇は観客席を含めた意味で『生』である。映像は観客席とスクリーンは別物、観客席との「生」の関係にはならない。観客席の影響はスクリーンには反映されない。舞台は観客席の数と呼吸で芝居も変わってくる。『生』の良さと怖さがつくづく感じられた。

後、惜しむらくは演劇博覧会との兼ね合いだろうか。空間が違うだけで企画が同じように感じられた。これもコロナ禍の中、致し方なかったのかもしれない。

兎にも角にも今年は「コロナ禍の中での合同公演」と位置付けられるのかもしれない。

悪戦苦闘の参加劇団と関係者には、心よりの感謝と大拍手を送りたい！

第19回かながわ演劇博覧会



劇団北口改札



劇団コピュラ



MMTパントマイム



ヤニーズ



劇団「無題」



劇団年輪



金沢総合高校演劇部18期

神奈川県立青少年センター スタジオHIKARI
2022年3月12日～13日



参加者の声

25年程前…って四半世紀！そんなに経つのね…

下北沢の「劇」小劇場で公演したことがある。劇場が建てられてすぐの頃で、新しさもそうだったが、設備が劇場用なのが嬉しかった。そして今回、それを思い出した。

例えば、昔よく借りた劇場は演者と客のトイレが共用だったから、知り合いと鉢合わせることもままあり、「来てくれたんだ、ありがとう」「これから出んじゃないの？」「まあ」みたいな会話になった。楽屋と客席の仕切りは扉一枚で、開場後は息を潜めるように開演を待った、でも、あの独特の緊張感は楽しかったかな。だから、楽屋にトイレがあるのは本当にありがたい。

そして楽屋が使えない時間は上の練習室に行けば、隔離された空間が確保されている、それは広くて、きれいで、空調だって効いている。

昔、大人数でザ・スズナリに出た時は楽屋に入り切れず若手男子は物置きを楽屋代わりに使わせてもらった。天井が低く、油断すると頭をぶつけ、その度に誰かが笑った。埃っぽくて、雨風は凌げたが年末年始で寒かった。いい思い出と言えるのか、ちょっと微妙。

県の施設だからと言えばそれまでだが、至れり尽くせりのスタジオHIKARIに感謝します。

文：新谷真木（ヤニーズ）

今回私たち劇団「無題」がお届けしたのは、平凡な主人公が結婚の為に超能力のふりをして超能力家族に挨拶に行くという、ファミリーコメディでした。

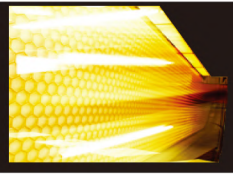
最近はYouTubeにて映像作品の公開を主に活動しておりましたが、生の舞台でお客様の笑い声が聞こえることは、映像作品では得られない幸せだと改めて実感しました。

特に近頃は、明日も必ず今日と同じような一日を迎えられるとは限らないことを考えさせられるような世の中で、お客様の前でこうしてお芝居が出来ることは奇跡に近い出来事なのだと、大袈裟ではなくそう思いました。

また、企画・運営を担ってくださった実行委員会・関係者の皆様、参加されたとの劇団さんからも「どんな世の中でも演劇が好きだ！」という気持ちは変わらないことが伝わってきました。そして、そういった方々の支えがあるからこそ、こうして演劇ができる環境があるのだと、心から感謝しております。

最後に、このような情勢の中ご来場いただいたお客様、ありがとうございました！これからもお客様が少しでも明るい気持ちで明日を迎えることが出来るようなお芝居をお届けできるよう、精進して参ります。

文：マリー（劇団「無題」）



劇評

第19回かながわ演劇博覧会

文：虹の素

■劇団北口改札『残心』

銀行強盗と人質に取られた銀行員の二人芝居でした。出捌けや場転が一切無かったせいか目を離す隙が無く、気がつくとも物語は終わっていました。終始二人の演技に惹き込まれ集中して見ることができ、楽しめました。舞台セットもとてもシンプルで、役者の技量があるからこそできる舞台であると感じました。

急転直下のラストシーンには本当に驚きました。心中をして登場人物全員が死んだのだから、当然そこで話は終わりになるはずですが、本当にこれで終わりなのか？とモヤモヤしたまま私は劇場を後にしました。後々考えてみると、確かにこの終わり方が一番スッキリした終わり方なのかもしれません。しかし、ハッピーエンドともバッドエンドとも言い難いこの芝居を見て、私はとても不思議な感情を持ち帰る結果となりました。(樹なみ)

■MMTパントマイム『色即是空』

色んなジャンルの作品が一度に集う演劇博覧会の魅力の一つだなと思う。1人の疲れたサラリーマンの帰宅後の居住まいが丁寧に丁寧に描かれる。情景としては何てことない平凡な日常の一コマだが、そこに食い入るように見入ってしまうのは、何もない空間にありとあらゆるものの存在を見せてくれるからであり、また一役者として、一つ一つの所作の丁寧さや繊細さをできる限り我が物にしようと目を皿にしてしまう。

そこからストーリーは江戸時代へと飛び、殺陣やダンスも織り交ぜて華やかに盛り上がっていく。実際の舞台上は音楽が流れるのみで人の声などしないのに。いや、言葉という情報伝達ツールが不在だからこそ、役者は表情で語り、客席もそこに注目する。(猪熊竜久馬)

■劇団「無題」『梶田家は超能力者である！』

演博といえばこの劇団だ！と言ってもいいでしょう。毎年、演博を盛り上げ続けてくれている劇団「無題」。作・演出の穂村氏の書く本は中高生の演劇部にとっても人気で、たびたび名前を見ます。今年の新作もとてもわかりやすい。ドタバタなファミリーコメディ。

全員のキャラと能力の設定とそこに付随してくる小さな笑いの積み上げがお見事。気がつけばあっという間に終わっていた。客席は笑顔で、最後の拍手からはみんなが楽しんだであろう暖かさを感じた。この作品をやりたがる学生は多そうだ。

出演していたキャスト達の経験や技術の差はもちろん感じのですが、でもそれが全く気にならないほど、全ての配役が適材適所で、魅力的で、役者のみんながとても輝き、生かされていて、そこに作・演出の役者達への愛と、持ち味の使い方のセンスを感じました。(木之枝棒太郎)

■金沢総合高校演劇部18期『レバリオアーンフェア』

コロナ禍の中この学校でも公演は難しい状況です。それでも演劇がしたい。そんな想いで舞台上に上がる高校生たちの姿は、キラキラと輝いて見えました。

高校生とは思えないくらい一人一人の表現力が高く、役者の見せ方や劇の雰囲気や格好良さのある舞台でした。全体としてチームワークがあり感動しました。

衣装も個性的でワクワクしました。少々ファンタジー味のある世界観とも相まって、とても楽しかったです。

演出には、メタ要素を取り入れた高いコメディ性があり、学生ならではのエネルギーが伝わってきます。しかし、夜の街で生きる者のどこか淋しげな心情や、ネオンが輝く街並みの裏にあるミステリアスな雰囲気や役者の芝居、照明や音楽で巧みに表現されていて見応えのある劇でした。(石田Jそん)

■劇団コピュラ『悪霊』

映像を駆使した作品。以前観た時よりも映像の工夫がたくさんあり役者との調和がかなり生きていたように感じた。リハと本番合わせて3回見たが、最初はその映像の雰囲気も相まって「ホラー？サスペンス？」という印象が強かったが、よくよく人物に焦点をあてていくととても人間臭い愛と憎が入り交ざったストーリーであった。人の想いというのは、とても強い力を持つ。その祈りだったり念だったり呪いだったりするものが、映像を通して具現化されていく。そう捉えてみると「悪霊」も恐いものではなく(いや、とはいえ人の怨念ほど執着して恐ろしいものはないのだが)どこか「あーわかるわかる」と共感できる身近なものに感じ鈍く心を抉られるような重みを感じられた。(猪熊竜久馬)

■ヤニーズ『オイテイク。』

最初の5分も経たないうちに心をつかまれ圧巻の連続でした。発達障害を持つ40歳の息子と、その両親の日常生活がコミカルに描かれていて、すごく笑えるのに、笑えない。明るさの中に確実にある切なさ。まさにヤニーズさんのテーマである「切ない喜劇、少し笑える悲劇」でした。

劇中、過去と現在、理想と現実が入交るのですが、過去や理想の中で生きるお父さんとお母さんの結婚指輪はとても輝いて見えるのに、現在を生きる二人の手の指輪はほとんど目に入りませんでした。それでも息子は、身体は成長しないけれど、心は成長していき、二人の苦しみや悲しみに繊細に反応していて、すごく苦しくなりました。

手の震えや、歩き方、立ち姿、動き方、表情で老いや特性を表現し、別人に見せる力に圧倒されました。次回の舞台も本当に楽しみで待ち遠しいです。(朝川風香)

■劇団年輪『Voyage』

横浜市戸塚区で活動する「劇団年輪」が演劇博覧会に初参加。舞台は嵐に揺られるフェリー船。登場人物は社長と秘書、親子、祖父と孫、チンピラの乗客4組と船長だ。フェリー旅行を楽しみに来たのかと思いきや、17年前の海難事故の真相が紐解かれていく。それとともに明らかになる血のつながらない親子の絆の物語だ。

フェリー旅行だからか、話し方や身振りに上品さを感じる人物が多かった。明らかに場違いなチンピラが実は警察官でアロハシャツとアフロで変装をしているという部分にはクスリと笑えた。最も印象に残っているのは「謝れるうちに謝りなさい」というセリフ。亡くなった人には感謝も謝罪も伝えられない。忘れかけていた、大切な存在を失ったときの後悔を思い出させてくれた。謝罪も感謝もその日のうちに伝えようと思った。(守倉紡)

TAK in KAAT

『KANAGAWA MUSIC REVUE SHOW vol.3』
KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ
2022年4月21日～24日

【総評】文：笹浦暢大（MPinK）

MPinK(ミュージカルプロジェクトin神奈川)「KANAGAWA MUSIC REVUE SHOW vol.3」を無事上演することができてホッとしております。

まん延防止等重点措置による稽古開始の遅れ、私も含め主要スタッフ、キャストのコロナ感染による稽古の遅れ。稽古再開後もいつ上演中止になるかの不安。総勢60名以上による劇場入り前のPCR検査を2回クリアした時の高揚感。千種楽終演後の安堵感は演劇人生の中でも忘れられない思い出となりました。

MPinKは既成の楽曲を多用するミュージカル集団です。メンバーは高校生大学生ばかりで、全員「プロ」と言える厳しい訓練を受けているもののみ。という神奈川県演劇連盟としては相当異色な集団として現在活動しております。現時点の私たちだけの力ではコロナ禍にこのサイズの劇場でこのサイズの公演をやることは到底できません。このチャンスを頂けたのは神奈川県演劇連盟、KAAT神奈川芸術劇場のおかげです。大変感謝しております。

今回はオーディションも実施し、10倍を超えるオーディションを突破した新たな精鋭たち含め総勢23人という当団体としては大規模な人数での公演を行いました。

公演内容は、このシリーズは一貫して「横浜」「川崎」「既存ミュージカル」この3つの世界を知っていただくというコンセプトで作成されています。川崎と横浜の架空の学校に通う学生たちがストーリーに沿って繰り広げる圧倒的歌唱と踊り。中でも多量のハモリと群舞は私たち最大の魅力であり、今回は生バンドの力もあり、大いに発揮することが出来ました。

また、有名ミュージカルソングやご当地ソングなどを多用することにより、お客様に耳馴染みのいい曲がたくさん

あり、わたしたちが狙っている「ミュージカル」と「コンサートライブ」の間をうまく狙えたのではないかと考えています。

私自身、5回目のTAK in KAAT演出、そしてちょうど10回目のKAAT神奈川芸術劇場での演出を久しぶりに体験でき、改めて神奈川が誇る素晴らしき劇場機構、機材、環境で作品創りをさせて頂けたこと、本当に素敵な時間を過ごさせていただきました。

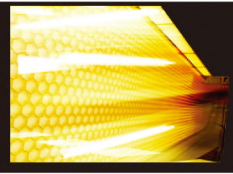
この作品に触れた方々がすこしでも川崎、横浜の魅力やミュージカルの魅力を感じて、身近なものに受け止めてくれるようになれば素敵だと思っております。

コロナ禍を感じさせない、ただただ明るく前向きな作品内容と創り方をした甲斐もあり、各ステージの本当に鳴り止まない拍手の雨と、帰り際の多くのお客様の満足そうな表情を見て本当にこの公演をやれてよかったなと思えました。

今回の好評を受けて、次回公演は急遽8月頭に開催することとなりました。これからも一人でも多くの方に「ミュージカルの魅力」を伝えられるような作品創りを続けていきたいと思えます。

今回は本当にありがとうございました。





劇評

TAK in KAAT「KANAGAWA MUSIC REVUE SHOW vol.3」

文：藤崎乃愛（虹の素）

生バンドの掛け声、からの上から降ってくる歌声。キャストのみんなが「楽しんでいてね!!」と目で呼びかけてくれているようで、1曲目から客席で踊り出したくなるくらい引き込まれました。自由に、自分の思うままに表現している姿からたくさんのエネルギーとパワーをもらいました。

物語は特色が違うことにより対立する横浜坂上女学院と川崎文化学園の言い合いから始まります。「川崎か！横浜か！」の憎悪が滲み出た叫びには笑っちゃったけど、でもきっと誰もが自分の住んでいるところにコンプレックスと誇りを持ってると思うんです。横浜坂上女学院のお嬢様たちも川崎文化学園のカラフル軍団も音楽が好きで憧れで希望でそれは変わらなくて、だからぶつかっちゃうのがすごくわかる。対立するからこそ2校の良さが引き立つし、双方の技術が素晴らしいからどっちも応援したくなります。特に坂女の横浜市歌inトイレ！やっぱりトイレに行く時もお嬢様はお嬢様だし、あんなに聞き入っちゃう横浜市歌は初めてでした。もしかしたらトイレなんて言わないのかもしれない。お花をつみに～なんて言っちゃうのかもしれない。

対する川崎文化学園は、英語とラップで攻めてきます。The フリースタイル！だけど、誰が歌っても場が締まるし、可愛い曲でもかっこいい曲でもかわいい子はかわいしかっこいい子はかっこいいんです。センターでこちらを誘ってくるような素振りにはキュンとしました。きっと彼女たちは下級生に最初は怖がられるけどいつのまにかカラオケでオールしちゃうようなタイプだと思います。ぜひとも連れてって欲しいな、マックおごってほしいなー！！

そして、前説でも「ミュージカルとレビューショーの間」という言葉があった通り、ミュージカルの名作にどっぷり

浸かれたのもとっても楽しかったです。ムーラン・ルージュの「Lady Marmalade」が歌われたあとには歌詞の内容に突っ込んだり、ウィケッドの「Defying Gravity」では「そのシーンを当てはめるなんて素敵ね！」なんてセリフがあったりして、私はミュージカル初心者ですが自然と名作の雰囲気を感じることができました。原曲を知らなくてもその曲がどんな場面でどんなテンションで歌われるのか想像しやすく、もしかしたら今の作品は自分の好みかもしれないなんてことも考えました。どうやら動画配信サービスで見られる作品も多いらしいので、少しずつ観ていこうと思います。

歌とダンスのクオリティに圧倒されたのはもちろんのこと、それ以外にも観客を楽しませるポイントがたくさんありました。まずは川崎クイズ。「世界一短いエスカレーターはどこで、何段？」といったようなローカルクイズが出題されて、観客に川崎・横浜を知る人が多いことを味方につけて大いに盛り上がりました（答えは「川崎モアーズ」で、5段）。実は私はどのクイズも答えを知らなかったの、少し川崎に詳しくなれました！そして「好きです かわさき 愛の街」の合唱。何重にも重なるハーモニーとかわい振り付けで、行ったわけじゃないのに川崎っていいところだな～と思わせられてしまいます。MPinKマジックだ…！

最後の1曲「MPinKのテーマ」までたくさんのエネルギーを浴びて、帰り道の夜景すらキラキラして見えました。高校生ってよく「今しかない」と言われがちな世代だけど、きっと観客はみんな高校生になったくらいの気持ちで楽しんだと思います。一瞬現実を忘れさせてくれる、素晴らしい体験でした。



今年も芝居塾の季節がやってきた！

青少年のための芝居塾は、一般から募った青少年と神奈川県演劇連盟で活動する劇団とが共に芝居づくりに挑戦するプロジェクトです。私、中川内瑠奈も3年前に塾生として参加し、演技実習やスタッフワークなど様々なことを学び、ますます演劇が好きになりました。

特に即興劇では、常にポジティブな意識を持つことを心がければどこまでも自由に表現して良いこと、その自由の素晴らしさも知ることができました。芝居が大好きな仲間たちと演劇に熱中することができたあの時間は今でも何ものにも代えがたい宝物です。塾生仲間とは今も切磋琢磨して演劇を続ける関係です。演じることの楽しさ、試行錯誤しながら仲間と作る楽しさを知って、もっと演劇が好きになりました。現在マシュマロ・ウェーブのメンバーとなった私は、今度は芝居塾2022のみなさんをサポートします。

芝居塾は昨年度に引き続き、今年の夏も不朽の名作「銀河鉄道の夜」を脚色した「ギンテツ」を上演します。お芝

居が楽しくてたまらない！と叫びが聴こえてくるほど全力で芝居に挑む塾生を、ぜひ一人でも多くの人に見てほしいです。きっと、あなたにとっても忘れ難い夏の思い出になることでしょう。

文：中川内瑠奈（資料室スタッフ）

■青少年のための芝居塾2022（公演予定）

『ギンテツ』 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」より

脚色／演出：木村健三

会場：青少年センター・スタジオHIKARI

日時：2022年8月10日(水)～14日(日)

チケット詳細は、ホームページ、SNSでお知らせします。



演劇資料室

【開室時間】

平日（火曜～金曜） 13:00～22:00（貸出は21:30まで）

土曜・日曜・祝日（月曜以外）10:00～22:00（貸出は21:30まで）

【休室日】

月曜、年末年始

※上記以外にも休室日がございます。ホームページをご確認の上、お越しく下さい。

〒220-0044 神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘9-1 神奈川県立青少年センター2階 演劇資料室 電話：045-286-4485

今後の事業・公演予定

- 劇団横濱にゅうくりあ『横浜ヘッドライトの夜』2022/7/30～31、横浜STスポット
- 青少年のための芝居塾2022『ギンテツ』2022/8/10～14、神奈川県立青少年センター・スタジオHIKARI
- 劇団820製作所『(未定)』2022/8、神奈川県立青少年センター・スタジオHIKARI
- 劇団「無題」『(未定)』2022/8/27～28、横浜STスポット
- 劇団河童座『(未定)』2022/8/27～28、横須賀市立青少年会館3Fホール
- TAK in KAAT『(未定)』2022/9、KAAT神奈川芸術劇場(大スタジオ)
- 虹の素『(未定)』2022/10/29～30、横浜STスポット
- 虹の素『失恋博物館VII』2022/12/22～25、神奈川県立青少年センター・スタジオHIKARI
- 劇団砂からマカロン『(未定)』2023/1、神奈川県立青少年センター・スタジオHIKARI
- 劇団こゆるぎ座『(未定)』2023/2/25～26

神奈川県演劇連盟加盟団体（50音順）

- 演劇プロデュース『螺旋階段』 ■京浜協同劇団 ■劇団蒼い群 ■劇団河童座 ■劇団こゆるぎ座
- 劇団砂からマカロン ■劇団820製作所 ■劇団「無題」 ■劇団横濱にゅうくりあ ■theater 045 syndicate
- G/9-Project ■虹の素 ■プラスチックな月 ■マシュマロ・ウェーブ ■まりこ☆みゆーじあむ
- MPinK(ミュージカルプロジェクト in 神奈川) ■横浜小劇場(横浜演劇研究所附属)

DRAMAかながわ 86号

[発行] 神奈川県演劇連盟（2022年5月31日）

[編集] オッスたかのり(劇団かに座)、吉浜直樹(劇団横濱にゅうくりあ)、穂村一彦(劇団「無題」)、
緑慎一郎(演劇プロデュース『螺旋階段』)、野比隆彦(studio salt)、波田野淳紘(劇団820製作所)

[ホームページ] <http://kenenren.org/>

